

ビジーポート石垣港(その2) —やいま・ふなうきまる・フェリーはてるま2と会う—

2023.3.1 池田良穂

石垣島を起点とする離島航路は、石垣島と西表島(いりおもて)との間の巨大なサンゴ礁の中に浮かぶ島々と、外海に浮かぶ2つの島を結ぶ航路があり、八重山観光フェリーと安栄観光の2社が定期航路の運航をしています。新興の石垣ドリーム観光も定期航路を運航していましたが、今はツアー用客船として運航だけをしています。

石垣島から最も近いのが竹富島で10~15分で到着します。小浜島、黒島、そして一番西側にある西表島では大原港と上原港の2港への航路があります。サンゴ礁の外には、西表島の北に鳩間島、南側に波照間島があり、それぞれ定期航路がありますが、荒れると欠航になることも多いようです。石垣島に滞在した3日間共に欠航でした。

3社ともに定期航路便よりは、観光用のツアー便での運航の方がはるかに多く、旅行社企画のツアー以外にも、各社ともに3島めぐりなどの独自企画ツアーも販売しています。年間80万人ほどが離島航路を利用しています。コロナ禍前に中国からの観光客が来ていた頃にはクルーズ客船も入港していたため、利用客は115万人まで増加したようですが、まだ中国人の需要がない中で、なんとか日本人観光客数のレベルの約70万人にまで戻っているようです。石垣島には、来る3月8日に「ウェステルダム」が入港して、国際クルーズ客船の寄港が再開するとのことです。

さて、今回の石垣島訪問の目的の3隻の姿を紹介したいと思います。「やいま」「ふなうきまる」「フェリーはてるま2」の3隻です。

やいま

2022年10月に江藤造船で竣工して、八重山観光フェリーに引き渡されました。124総トン、乗客乗員200名。オープンデッキがあって、美しい海を眺めながらの航海が楽しめます。船名は、八重山の石垣島での言い方とのことです。速力は32ノットです。「あやばに」の同型船です。







ふなうきまる

西表島の西側の端にある陸の孤島船浮(ふなうき)集落への連絡船で、白浜港から 10 分の航海です。運航は船浮海運。19 総トン、18 ノットです。船は沖縄県離島海運振興が建造して、民間の船浮海運が運航する上下分離方式で運営がされています。

数年前に、新しい「ふなうきまる」が就航したとの新聞報道を見て、ぜひとも見てみたいと思っていました。1 日 5 往復で、料金は往復 960 円。船浮発は往復 880 円と料金が異なります。

さて、7 時 10 分石垣島発の安栄観光の 19 総トン型船「第 38 あんえい号」に乗船し、40 分で大原に到着。この便は、本来は島の北端にある上原港行だったのですが、外海が荒れているので欠航となり、大原港到着に変更になり、大原から白浜までは安栄海運の送迎バスで送ってくれました。大原から白浜までは、路線バスもありますが、本数は少なく、運賃も約 1400 円でしたので、無料送迎バスはありがたかったです。大原から白浜までは、上原港経由で約 1 時間かかりました。

白浜港の客船ターミナル内の展示で知りましたが、この辺りは明治時代から昭和 30 年ころまで炭鉱で栄えたのだそう。なお現在の船浮集落の人口は約 50 名とのこと。宿泊施設もあるそうです。

「ふなうきまる」の入港直前に激しいスクールがありましたが、入港時には雨は上がり、なんとか写真が撮影できました。



フェリーはてるま 2

石垣港から波照間島には、かつて波照間海運がカーフェリー型旅客船と高速旅客船を運航していましたが、安栄観光が高速旅客船の運航を始めてから競争が始まり、2012年には波照間海運の経営者が夜逃げしたといわれています。貨物や燃料を運べなくなり、最終的には安栄観光が「フェリーはてるま」を入手して、運航を始めました。2019年には、同船の代替船として中古船を購入して「フェリーはてるま2」と改名して投入しています。乗船客のブログによると、「フェリーはてるま」に比べると

レベルがかなり向上したとのことです。ちなみに「フェリーはてるま 2」の前身は、平戸市営フェリー「第二フェリー大島」です。



夕方に石垣港に入港してきた「フェリーはてるま 2」の姿をホテルの部屋から撮影しました。



「やいま」に乗船して小浜島から石垣島に戻る途中に「フェリーはてるま2」を近距離で追い越しました。